

「念願のオーディオテクニカ見学」

2年女子

今回のオーディオテクニカ本社見学会を非常に楽しみにしていました。私はオーディオテクニカ製のイヤホンを使用していて、登校時にオーディオテクニカのマークを見て、いつか見学会にいきたいと思っていました。そこで今回の企画があるのを知り参加希望書を書き、応募しました。応募が多ければ抽選になると書いており、もしかしたら抽選落ちで参加できないかもと焦りましたが、全員参加できると聞いたときとても嬉しかったです。本社に入ったときすぐに目に見えた蓄音機に驚きました。そこで蓄音機の説明を聞きました。レコードが蠟から瀬戸物に変わったことや、初代社長が蓄音機好きで沢山集めていて、大量の蓄音機を地元の福井県に贈呈したことなどにとても驚きました。レコードを聴くのは初めてで、とても感動しました。今回の見学で無響室内が一番印象に残りました。その部屋がほかの部屋とは違い浮き構造になっており、外からの振動をカットしていることや、壁がグラスウールでできていて音を吸収できるようになっているなどさまざまな工夫がされていました。今回の見学でオーディオテクニカの商品開発に対する様々な工夫を知ることができいい経験になりました。

「私も探究を頑張りたい！！」

1年女子

今回、オーディオテクニカ本社見学を通して色々なことを知ることが出来ました。

始めに見た蓄音器では創業者の生い立ちについて学びました。創業者が最初に勤めた仕事が音楽機材の仕事ではなく美術館だったことが意外でした。創業者含め4人で始め、カートリッジの作成に成功して経営することが出来たことを知り、自分の好きなことを仕事にしたことに感動しました。

その次に、開発過程等についての説明をして頂きました。普段何気なく使っているヘッドホンがとても考えられて作られているのを改めて知ることが出来ました。設計とデザイン両方が良くないと競合品に負けてしまう、知性と感性が共存することが必要だとおっしゃっていて、そのためには興味を持って探究することが大事だとわかりました。学校の授業での探究を適当にせず、しっかりやろうと思います。

無響室では普段とは違った環境を体験しました。無響室の外で手を叩くのと無響室で手を叩くのでは少し違ってとても奇妙で不思議な感覚でした。部屋を暗くすると感覚が研ぎ澄まされてさらに感じたことのない状況に怖さを感じました。無響室でも人が多いと人に反射してしまっって完全な無響空間ではなくなってしまったことが残念です。

今回の見学は私にとってとても貴重な体験となりました。しかし、マイクロフォンの原理の説明や波の波形など難しいものがあり、わからないことがありました。もっと専門的な知識を身に着けていれば今より多くの事を理解することができ、より楽しめたと思います。これを機にしっかり勉強したいと思えるようになりました。いつか機会があればもう一度行って今回では分からなかったことや新しいことを知りたいと思いました。

「「そだね〜〜」を生んだオーディオテクニカの技術」

1 年女子

私はイヤホンやマイクについて詳しくなく、「地元にある企業」ということでこのオーディオテクニカの見学に参加しました。最初に会社の入り口の方にある蓄音器を見学させていただき、古い方から順を追って聴いてみると、始めは雑音が混じったりしていた蓄音器が、比較的新しいものとなると、本物と遜色ない歌声が社内に響き渡っていて、技術の進歩を感じることができました。

次に、実際に社員の方のオーディオテクニカについての説明などを聞きました。特に私が興味を持ったのは平昌オリンピックで「そだねー」を録音したのはオーディオテクニカの製品だったという話です。流行語となった裏側には身近な企業関わっていることに感動しました。

最後に社内を見学してもらいました。特に私が驚いたのは無響室です。部屋一面に楔状の吸音材が 360° 隙間なく設置されていて、部屋に入った瞬間圧倒されると同時に、耳が言葉にし難いような不思議な感覚になりました。このオーディオテクニカの見学で、普段体験できないことや、耳にしないようなことなどを沢山経験することができました。今回学んだことを今後の生活で生かしていきたいと感じました。

「もっと知りたい！！」

2 年男子

私は、オーディオテクニカの本社を見学してさまざまなことに驚いた。オーディオテクニカが世界的に有名なのは知っていたが、オリンピックやグラミー賞などに機材を提供しているということを知り、とんでもないところを見学させていただいていることを実感した。カラオケのマイクがオーディオテクニカの製品だと知ったときは、カラオケはよく行くのでとても親近感が湧いた。蓄音機とレコードを初めて聴いて、当時の録音技術の仕組みを知った。無響室、視聴室、電波暗室を見学して、その部屋でしかできない検査をしていることを知り、製品を作るのに無響室、視聴室、電波暗室がある意味を知った。細かい内容については難しいところもあったが、そういうところをもっと勉強して理解できるようになりたいと思った。また、音楽についてより深く知りたいと思った。

「もっと楽しむために専門性を身に付けたい！！」

1 年女子

オーディオテクニカの見学を通して、私はたくさんの音楽のあり方を知ることができました。始めに見た、蓄音機は小さいものや大きいもの、近代に近づくにつれて奏でる音色がきれいになっていました。専門的な機械が多く、無響室や視聴室、電波を吸収する部屋などが印象に残りました。オーディオテクニカの製品が日本だけでなく、世界中で使われていることを知りただただすごいと思うしかできませんでした。マイクの導入率が 85%もあったのに驚きました。今回の見学はもっと専門的な知識があればより楽しめたと思うので、今後専門性を身に付けられるよう勉強していきたいと思います。この経験を生かして将来のことに役立てたいです。

「この経験を進路選択に生かたい」

1年女子

今回のオーディオテクニカ本社見学は、私にとって大変貴重な経験となりました。商品が作られ販売されるまでに様々な工程があり、作っている方々の努力に触れることができたのはとても良い経験でした。

会社内の特殊な設備も面白いものばかりでした。

無響室で体験した音の響かない感覚はとても奇妙で、明かりを消した時は方向感覚が少し分からなくなるほど混乱しました。

電波暗室では完成品の検査について詳しく教えて頂き、商品としての基準をクリアするまでに何度も改良されていることを知り、私達が普段使っている物が売られるまでに大勢の人の努力があったのだと感じました。

今回の理数研究校としての活動を通して、多くのことを経験し学ぶことができました。この経験や学びを今後の進路選択に活かしていきたいです。また、今後も理数研究校の活動に参加したいです。

「安全な製品を世の中へ」

2年男子

今回オーディオテクニカの本社に見学しにいったまず驚いたのが建物の形が変わっていることです。いつもは正面からしか見れなかったけど、敷地内から見ることで屋根が奥に行くほど低くなっていくことや内部のブロックを組み合わせたような斬新できれいな構造に感動しました。

そして、内部の見学が始まると、無響室という部屋が回りから浮いている構造になっていて中も音を反射せずに吸収する素材で満ちていてそれがとても大きい凹凸状で使うことで音を吸収する性能が最大限に使われるんだと言われ人体の構造で学んだものと通じるものがあるなあと思いました。

また、製品を売り出すときに世界中の様々な規格に合格するために実験する電波を吸収する部屋では壁が様々な素材で何重も重なってできていて驚きました。

今回の見学と説明を経て、オーディオ機器だけでなく、他の業界でも細かい規格やルールがあるのが分かりました。将来、自分が作った何かを社会に出すことがあったら安全第一のものを作りたいと思いました。

「貴重な経験」

2年女子

今回ずっと行きたかったオーディオテクニカが成高の近くにあるという事を知ってとても驚きました。実際行ってみて、無響室や電波暗室、視聴室など興味深い特殊室がたくさんありました。なかでも無響室が私にとって一番不思議な部屋でした。そこは音の跳ね返りが無いように設計されているため、周りの声や自分の声が普段の声の3分の1くらいの大きさになり、床もトランポリンのような構造になっていて、電気を消すと視覚・聴覚同時に無くなるのでとても怖かったです。オーディオテクニカで普段なら経験出来ないような貴重な体験をする事ができ、行ってよかったなと思いました。